

# 公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成19年7月6日

施設名	高知県立美術館	所管課室	文化推進課
-----	---------	------	-------

## 1 施設の概要

指定管理者名	財団法人高知県文化財団	指定期間	平成18年4月1日～平成21年3月31日
施設所在地	高知市高須		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示</li> <li>・美術に関する専門的な調査研究</li> <li>・美術に関する講演会、講習会、研究会等の教育普及活動</li> <li>・美術品等の展示のための県民ギャラリーの提供</li> <li>・音楽、演劇等の鑑賞のためのホールの提供</li> <li>・上記のほか、美術館の設置の目的を達成するために必要な業務</li> </ul>		
施設内容	<p>面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p>&lt;建物&gt;延べ床面積:6,388㎡ SRC造地上3階建</p> <p>&lt;土地&gt; 19,574㎡ 駐車場 144台</p> <p>&lt;主要施設&gt; 常設展示室、企画展示室、県民ギャラリー、講義室、創作室、ミュージアムショップ、レストラン、美術館ホール(399席)など</p> <p>&lt;開館時間&gt;午前9時～午後5時</p> <p>&lt;休館日&gt; 12月27日～1月1日</p> <p>&lt;主な料金&gt; 常設展 一般350円・大学生250円 高校生以下、県内の65歳以上は無料</p> <p>施設利用料 県民ギャラリー21,230円(1日)、企画展示室53,100円(1日) ホール1日38,080～45,910円</p>		
職員体制	常勤職員: 12人	契約職員: 13人	合計: 25人

## 2 収支の状況

単位:千円

		平成17年度(決算)注2	平成18年度(決算)	平成19年度(予算)
収入	県支出金	400,935	321,250	322,612
	事業収入		61,687	41,692
	その他		29,407	14,100
	収入計	400,935	412,344	378,404
	(県収入)注1	43,441		
支出	事業費	65,302	108,062	83,507
	管理運営費	252,045	248,756	281,472
	(うち人件費)	(111,198)	(102,060)	(110,418)
	その他	83,588	13,873	13,425
	支出計	400,935	370,691	378,404

注1 平成17年度は「指定管理者制度」導入前であり、事業収入は県の収入。

注2 平成17年度は文化財団総務部経費を美術館に全額計上(平成18年度以降は5施設で按分計上)

## 3 利用状況

		平成17年度実績	平成18年度実績	前年度比
年間利用者数(単位:人) 注)貸館入場者を含む	常設展	3,616人	10,962人	7,346人
	企画展	47,489人	66,332人	18,843人
	貸館	77,120人	245,167人	168,047人
	美術館ホール	40,476人	51,197人	10,721人
	合計	168,701人	373,658人	204,957人
	<利用実績>利用者数で見ると企画展や貸館事業における利用者が大幅に増加したことにより前年度比204,957人(21.5%)増の373,658人となっている。このことは、収入の目標を145%達成したことに現れている。			

<p>利用者意見等の反映</p>	<p>利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <p>・利用者アンケート          企画展覧会、ホール事業、出前びじゅつ講座など事業毎のアンケート、KoMPal(友の会)を対象にしたアンケートを実施。          結果は集計の上、月1回の全職員参加の館会議で報告し、問題点、改善策等を協議、確認している。</p> <p>・アンケートで意見のあった取り上げてほしい作家や作品の要望については、全て対応できるわけではないが、企画展やコレクション展でできるだけ紹介できるよう留意している。また、直接の指摘については、例えば館入口に当日の催しが分かる一覧表がほしいとの要望に、掲示ボードを設置するなど、すみやかな対応に努めた。</p> <p>その他</p> <p>・展覧会やホール事業などで利用者からクレームがあった場合には、記録をするとともに対策を講じ、問題意識と改善事項を職員全員が情報共有している。</p> <p>・外部の有識者からなる「高知県立美術館運営協議会」を開催し、館の業務全般について定期的に評価をいただく体制をとっている。</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>・館の利用のほか、以下のような活動を行った。</p> <p>[教育普及事業] 出前びじゅつ講座 32校(1,301人)          ハロームuseum(学校移動美術館) 3校(881人)          館内ツアー 月2回          講座・ワークショップ 41回(860人)          ギャラリートーク 180回(909人)          企画展関係講演会 4回(延べ18日、1,059人)</p>

#### 4 平成18年度業務評価

項 目	状 況 説 明
<p>管理運営に関する評価</p>	<p>施設設備の管理、危機管理体制、法令遵守など適正な管理運営ができていと認められる。</p> <p>・サービス向上の努力が具体的に認められる。</p> <p>・販売促進や外部資金の導入などの収入増加の取り組みと、経費節減の努力を行い、成果があがっている。</p> <p>・独自の事業評価の取り組みや頻繁なアンケートの実施とフィードバックが適切に行われている。</p>
<p>事業の実施(企画及び運営)に関する評価</p>	<p>資料の収集・保存、展示・企画事業、調査研究、教育普及事業の各事業において適正な事業の実施が行われた。</p> <p>・展覧会やホール事業の内容に魅力的なものが多く、熱心な運営がされている。</p> <p>・様々な切り口で、新しい事業の試みに取り組んでおり、各種の受賞につながっている。</p> <p>・地元の文化団体やNPOとの連携を進めて、実績が上がっている。</p> <p>・イベント案内の方法に工夫がある(イベントに応じた広報の仕方、時期や内容)。</p> <p>・カルチャーサポーターの活動が組織的に運営されている。</p> <p>・県民との協働により展覧会を実施するなど積極的な取り組みを行っている。</p> <p>・観光振興の視点はこれからの文化施設に求められる課題であるが、指定管理者の取り組みだけでは効果的でなく、県や観光関係団体との連携が求められる。</p>
<p>総体的な評価</p>	<p>・展示、資料保存などの基本的な管理運営に加え、ホール事業を通じた芸術の振興や人材育成に努めており、いずれも高く評価できる。</p>
<p>総合評価</p>	<p>A</p> <p>・総合的に成果があがっており、評価できる。特に、展覧、展示だけではない美術館の多様な面白さを提供することに成功している。</p> <p>・美術館ホールを含めて企画が良く、子どもでも、大人でも共に楽しめるものになっている。</p> <p>・教育普及事業の充実、保護者・地域を巻き込んだ取り組みをはじめ、次世代を担う子どもたちに対する明確な意識を感じる。</p> <p>・世界的に評価されている写真家からの寄贈があったことは、これまでの館の運営努力が評価されたものと認められる(一方で写真展の入場者が少ないため、入場者増加へ努力が必要)。</p> <p>・現在の人員体制で、現状の成果を維持、継続していくことには、相当の努力が必要だと感じる。職員のモチベーションの維持、負担の軽減などに留意されたい。</p>

[評価の目安]

- A:仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B:おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C:仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D:管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの